

ミニカーや原動機付自転車の
メンテナンス&レストアで
講義をサポート。



小・中・高校生が機械に興味を持つきっかけにも。



ミニジープの様々な箇所の点検等を終えた後、車体の下に潜り込んでの作業にあたる。50CCエンジンを固定するため、ボルトをトルクレンチで締める作業を行う。



50CCエンジンを搭載した原動機付自転車を、「自己診断装置」で点検する。ライト、スロットル角度、冷却水の温度などを調整するほか、CO濃度の変更などを行う。

ミニカー(ミニジープ/ MC-1)と原動機付自転車の分解・組立を行う機械工学コースの講義「メカフォーラムⅢ」をサポートするプロジェクトです。講義は半年に1回行われるために、講義時間以外のはきは放置する状況となり不具合が生じてしまいます。そこで、講義で支障なく使用できるように年間を通してメンテナンスやレストアを行っています。また、バックギアの仕組みを調べるなどして知識を増やし、講義でも説明できるようになることで講義の質を上げる役目も担っています。

あわせてオープンキャンパスや造大祭などのイベントでミニカーなどを展示したり、実際に動かしたりすることで小・中・高校生たちが、本学の学びや機械・クルマに興味を持ってもらうことも目標です。このため、一台一台の不具合箇所を探し出し、時間をかけて丁寧にメンテナンスしたミニカーや原動機付自転車が、再び正常に動くようになったときは、達成感とやりがいを感じますね。

卒業後は、クルマとは直接関係のない水処理等のインフラ整備を行う会社へ就職しますが、機器をメンテナンスしたり、修理したりする仕事は発生するはず。将来にわたってこのプロジェクトでの活動を意識しながら、社会を支える業務に励みたいと思っています。



leader

機械工学コース4年(2023年3月卒業)
川下 将世
長崎総合科学大学附属高等学校(長崎県)出身

小さい頃からものづくりが大好きで、設計したものが残る喜びや機械をメンテナンスして復活させる作業に魅力を感じていたことが入学のきっかけになった。高校時代、高大連携授業で本学8コースの学習を体験。その結果、幅広い分野を学べる機械工学コースを選択した。